

# 森づくりの最前線

千葉森林管理事務所 大多喜森林事務所 森林官 石井 正夫



麻綿原から大多喜管内を見る

当森林事務所は、千葉県房総半島南東部勝浦市上野に所在し、隣接する上野森林事務所と合同事務所となっており、勝浦市、大多喜町、鴨川市等に所在する国有林約3500㍍を管理しています。

管内には、南房総国定公園に指定されている「麻綿原高原」がありスギ、ヒノキの人工林美と雄大な眺望が素晴らしく、アジサイの名所「天拝園」と併せて多くの観光客が訪れています。

また、レクリエーションの森「筒森自然観察教育林」には、大正時代に造成した見本林3㍍があり、四季を通じて樹木観察、森林浴の場として愛され、勝浦ダムに映える森林の美観、遊歩道からの房総丘陵、太平洋の眺望が楽しめます。



筒森自然観察教育林

管内人工林のうち、約1000㍍はスギが植林されており、その大部分がサンプスギです。サンプスギの出生地は千葉県の山武郡であり、通直な幹で、枝が小さくしかも短く、上長成長も早く、見るからに理想的な成長をするスギで、伊勢参りの帰りに枝を持ち帰り、挿し木で育てたのが始まりだと聞いたことがあります。古くからの改良種であり、千葉県内では官民間問わずスギの約7～8割がこのサンプスギが植林されています。

ところが、このスギは致命的な欠点を有しています。サンプスギの溝腐病です。

溝腐病については、昭和57年頃に、研究テーマとして管内のベテラン苗畑主任と共同で取組み発表した経験があります。この症状としては幹の一部の表皮部が周囲より窪んでおり、表皮を削ると中が腐っています。原因としては、気象害の悪条件に耐え切れず抵抗力が落ちた状態で病原菌が潜入したと考えられます。

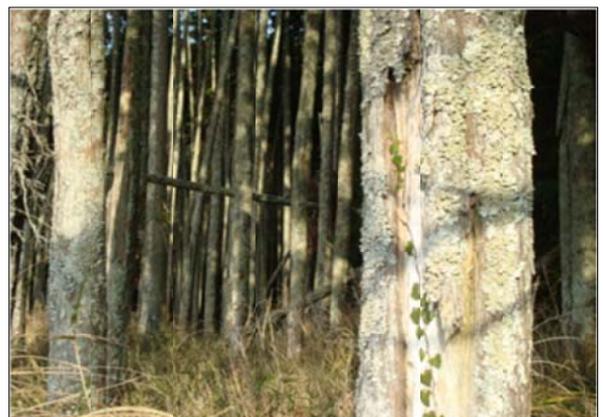
罹病木は用材としての価値はなく、パルプ材の用途しかありません。溝腐病を解消するには間伐等の森林施業を適切に実施する必要があると考えています。

現在、管内のスギを見ると溝腐病の進行が激しい状況となっています。大風が吹く度に幹折れが発生し惨憺たる光景となっています。この状態がいつの日か終了し、サンプスギの溝腐病が過去の話となるように、今年度、上野大多喜部内83.43㍍の間伐を実施しています。

森林官在任2年、残り少ない国有林勤務ですが、後世に引き継ぐ山づくりをしていきたいと考えています。



サンプスギ溝腐病



サンプスギ溝腐病